

乗明聖人御返事

建治三年四月一二日 五六歳

相州鎌倉より青鳧二結、甲州身延の嶺に送り遣はされ候ひ了んぬ。
昔金珠女は金銭一文を木像の薄と為し、九十一劫金色の身と為りき。其の夫の金師は
今の迦葉、未来の光明如来是なり。今乗明法師妙日並びに妻女は銅錢二千枚を法華經
に供養す。彼は仏なり此は經なり。經は師なり仏は弟子なり。涅槃經に云はく「諸仏の
師とする所は所謂法なり。乃至是の故に諸仏恭敬供養す」と。法華經第七に云はく「若
し復人ありて七宝を以て三千大千世界を満て、仏及び大菩薩・辟支仏・阿羅漢を供
養せん。是の人の得る所の功德は、此の法華經の乃至一四句偈を受持する其の福の最も
多きには如かず」と。夫劣れる仏を供養するに尚九十一劫に金色の身と為りぬ。勝れた
る經を供養する施主、一生に仏の位に入らざらんや。但真言・禅宗・念佛者等の謗法の
供養を除き去るべし。譬へば修羅を嵩重しながら帝釈を帰敬するが如きのみ。恐々謹
言。

卯月十二日

日蓮花押

乗明聖人御返事